

第57号
令和元年
7月10日

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
URL <http://midori.jpn.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197
URL <http://www.syoujukai.org/> E-mail ikoinosato@syoujukai.org

編集責任者：理事長 中村 猛
編 集：季刊誌編集委員会



第57号御挨拶

理事長 中村 猛

皆さん、こんにちは。

今年の梅雨入りは6月の最終週間に入り、例年よりも最も遅い梅雨入りとなりました。

あたりの田圃では満々とたたえられた水田に見事な整然と植えられた稻作が目に飛び込み、今秋の収穫の豊穣を期待したいと思います。

又、我々の住む都会から離れた郊外の町に住宅地や商工業の土地の中に、こうした我が国の米作の生産を行なわれているのを誇らしく思います。きっと農業にたずさわれている方々ばかりでなく、すべての市民に米作農業の伝統は自然の恩恵を与えてくれることでしょう。我々の住む町を良くしようという願いは市民の最も強い要望であります。暮らしの豊かな町作りは、区画整理され近代化された一律の町並みが決して良いとは限りません。本当に住む人々にとって良い町づくりとは、幸わせな

- ・生活を営む町づくりとは、やはり住む人々が集い、助け合い、豊かに暮らせる環境作りであり、そのために多様な人々の工夫によるあくなき目標設定と実行であると思います。
- ・政治、経済、教育、医療福祉、文化等々にたずさわるすべての方々が協力し合い互助の精神で団結した取り組みを推進することが必要です。
- ・私達の医療法人みどり会中村病院が今年40周年の節目を迎え、先日、記念式典祝賀会を行ないました。御来賓の皆様には御多用のなか御臨席いただき、私達スタッフは日頃の御恩に心から感謝と御礼を申し上げ、一同、又、これから50年半世紀に向かって、地域医療の社会貢献に努力してまいりますことを誓いました。
- ・今後ともかわりませぬ御指導、御支援よろしくお願ひ申し上げます。



令和元年新人宿泊研修実施～研修所 みどりの樹～ 施設運営マネジャー 玉置 賢

新人研修の一環で6月1日から2日にかけて、開田高原にある研修所みどりの樹に行ってきました。

研修を通じて職員同士の絆を深め、中村病院の理念である「温かさ」と「思いやり」を持って、それぞれが明日からできる行動を考えるということが目的です。

1日目は報連相やチームワークについて。2日目はみどりの樹の周辺整備をチームで実施するという学んだ内容の応用編です。新人職員たちはそれぞれの課題にチームで力を合わせて非常に熱心に取り組んでいました。また、勉強ばかりではなく、木曽の話を聞いたり、蕎麦を食べたり、星を見たり、滝を見たり、全員で合唱したりと、盛りだくさんの研修でした。今回、企画実現まで

ご協力頂いた全ての関係者様に感謝申し上げます。



1日目のチームワークについての研修

m 創立40周年式典祝賀会開催

院長 高橋 輝



高橋院長謝辞

医療法人みどり会 中村病院は今年創立40周年を迎えました。

枚方市藤阪の地で外科診療所からスタートし、206床の病院に至るまでの間、多くの方々のご支援を頂きました。そこで、これまでの法人の発展を支えて頂いた関係各位の皆様をお招きして、6月15日に祝賀会を開催しました。270名もの多数のご参加を頂き、祝賀会は盛況のうちに終えることができました。

中村病院では昨年完成した増築棟に加え、外来診察室の増設などの追加工事を実施しておりましたが、この6月に完了しました。7月からは外来診察室10室にて診療を開始しています。また、骨密度測定装置も新たなものに入れ替え、筋肉量や体脂肪率も計測できる装置を導入しました。度重なる工事にて院内掲示も新旧入り乱れてわかりにくくなっている部分もありますので、全て新しい表示に刷新する予定です。

これでリハビリ病棟・リハビリ室の拡張、院内ローソンの出店、健診センター開設、総合受付新設、外来診察室増設といった一連の設備整備は完了しました。今後は新規設備を活用し、診療機能面の充実を図るために職員一同努力して参ります。

令和の幕開けとともに当院も50周年に向け、その歩みを進めて参りますので、今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



宴席風景



40周年記念誌



中村病院外観



リハビリ室



外来受付



骨密度測定器



訪問リハビリ開設1年が経過して

訪問リハビリテーション課長 理学療法士 山田 淨明

2018年から開始したなごみの里訪問リハビリテーションサービスも、今年の5月で丸1年が経ちました。開始当初は依頼も少なく、2018年6月8日に初めてのご利用がありました。最初は1週間で1,2件のご利用件数でしたが、現在は週間10件前後のご利用をいただいております。

なごみの里訪問リハビリテーションでは、『あなたの思いに寄り添うリハビリテーション』を目標に2つのコンセプトで動いております。

まず1つ目のコンセプトは、『「困った」を「安心」に変えることができます』です。家で生活するうえでご本人やご家族の心配なことや不安なことを軽減できるように努めています。例えば自宅内を安全に歩行が出来るように、歩行練習を行ったり、自主トレーニングの提案、必要であれば杖や

歩行器、てすり等の福祉用具や環境調整の提案をしたり、ご家族への介助方法や注意点の指導などを行っております。

2つ目は『あなたらしく』です。やってみたいことや、もう1度してみたいことに挑戦できるように支援させて頂きます。もう1度自転車に乗って出かけたいという事を目標に取り組んだこともあります。最初は自転車の後ろを支えながら乗るところから始めて、最終的にはご自宅周辺を1人で乗れるようになったので、訪問リハビリを卒業された方も実際におられました。

病院や施設のリハビリテーションとは異なり、実生活場面で行える事が訪問リハビリテーションの強みの1つではないでしょうか、今後も皆さまのお役に立てるよう頑張ってまいりますのでよろしくお願ひいたします。まずはお気軽にご相談ください。



繰り返される虐待

先月もニュースで「介護施設の職員が高齢者に暴行・虐待」といった報道を目にしました。厚生労働省によると、介護施設での虐待はこの10年で10倍に増え、死亡事故も増加しているとのこと。又これらは氷山の一角でしかなく、虐待の原因は人手不足やストレスからだと。

こうした事件を目にするたび、現在の介護施設の労働環境が虐待の温床になっているかのように報道され、悔しい気持ちが高まります。たしかに介護業界における人材不足は深刻です。私もこの業界で20年以上従事しておりますが、ここ数年ほど施設スタッフや内部環境にしっかりと目を向けねば

ならないと思ったことはありません。しかし、人手不足やストレスが直接虐待に結び付くというのはあまりにも短絡的です。

報道されているような事件の加害者は、そもそも対人援助の適正を欠いているような人物だと思います。大多数のスタッフは様々なストレスを抱えながらも、自分の感情をコントロールし、プロの介護士として一生懸命取り組んでいるということを多くの方々に知ってもらいたいと思います。今後も、私たちの日々のご援助が利用される皆さまへ安心を届け、ひいては介護施設に対する社会的信用が高まるよう取り組んでまいりたいと思います。

在宅支援



「訪問介護」の仕事に携わり

現在、訪問介護ステーションみどりは、ヘルパー常勤3名、非常勤11名の計14名で運営しております。訪問介護の仕事に携わるようになり、周りからは「在宅の仕事はどうですか？大変でしょ？」と聞かれます。どの仕事も大変だと思いますが、「大変です」と即答しています。

しかし、ご利用者のみならず多くの高齢者は、要介護状態になってしまっても「自宅で介護サービスを使いながら過ごしたい」と考え、最期をむかえる場所は「自宅」と答える方が多くいらっしゃいます。実際、日常生活の中でも、ヘルパーと思われる人や、デイサービスなどの送迎車が往来している光景を見る機会も多く、世の中の介護サービスも広く浸透してきているのだろうと実感しています。ただ、訪問介護事業所もヘル

パーの高齢化、人不足などの問題が常につきまとい、閉鎖する事業所も出てきています。ご利用者の生活の質を落とすことなく、住み慣れた自宅で生活を継続していただくためにはどうしたらしいのか？ 介護サービスだけではなく、どのような環境づくりをすれば自宅での生活が継続できるのか？と考えさせられることがあります。

24時間365日続く生活の中で、ヘルパーの関わりはほんのわずかなものです。生活全てをカバーすることは難しいですし、訪問して、次回訪問時まで変わらず生活してくださっているだろうか？ という心配も尽きません。私たちも色々なアンテナを張りながら、微力ではありますが、ご利用者の生活が少しでも円滑になるよう努めていきたいと考えております。



8050問題について

包括みどりでは様々な相談に応じているが、8050の問題を抱える家族は多くいる。8050問題とは、長期化した引きこもりなどを抱える家族が社会的に孤立していることをいうが、マスマスメディアの取り上げも最近は続いているし、にわかに注目されてきている。中には、何らかの生きにくさを抱える40代の子（10代）の養育問題などが同時にあり、それは、3世代（704010問題というべきか）にわたることも珍しくはない。

相談業務に従事していると川崎の殺傷事件がとても大きな影響を与えていると感じている。あの事件以降、何らかの生きづらさを抱える本人、家族が明らかに動揺している。元事

務次官の事件は氷山の一角と思う。

親の気持ちを傾聴していると「他人に迷惑をかけたくない」と揃えて口にされ、経済的支援を継続している。閉ざされた人間関係を数十年続けているから、社会的に孤立を生みやすい問題の根深さがある。

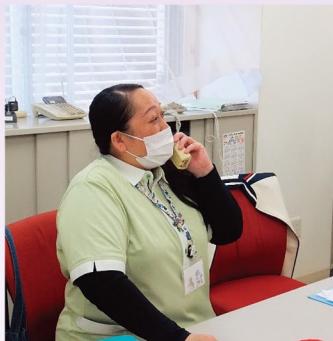
介護保険が始まって、これまで身内で完結していた家庭内の介護問題は、他者（専門家）を交える様になった。引きこもり等の家庭内の問題も専門家に是非、相談してほしい。

一緒に伴走する専門家とともに、その生きづらさを踏まえながら、生きていく方法を見出してほしいと強く思う。

枚方市地域包括支援センターみどり 所長 伊内 康宏

「枚方ひこ防'z」～枚方市総合防災訓練～に参加して

つくしんぼ藤阪 管理者 坊 晃子



昨年6月に起った大阪北部地震の教訓として、6月16日(日)枚方市では「枚方ひこ防'z」～枚方市総合防災訓練～が実施されました。シェイクアウト訓練といい、地震を想定した訓練で、松樹会でもいこいの里が福祉避難所になっていることもあり、枚方市長寿社会部より、状況確認の電話が入り担当者が「避難者の人数確認、被災者の確認、建物の被害」などの返答対応をしました。

岡東中央や4か所の小学校校区でも避難訓練が実施され、松樹会職員も数名が参加して参りました。発電機や毛布、

簡易ベッドなどの物資は十分でしたが、非常食は備蓄されていないのが現状で今後の課題だとのことでした。

松樹会では、各施設で3日分の非常食は準備されているものの、懐中電灯や簡易トイレなど、まだ不足している備蓄品があります。「いつかまた来る」と備えること、それぞれの家庭や施設が個々で、避難場所の確認や備蓄品の整備をしておかなければならないということを改めて感じられる訓練となりました。



オレンジカフェいこい

(ディサービスいこいの里&たんぽぽ田口合同企画)

グループホーム田口 管理者 岩崎潤一

毎月一度、いこいの里の地域交流スペースにて、オレンジカフェいこい（認知症カフェ）を開催しています。

オレンジカフェとは、認知症の方や家族、地域の方々などが集まり、情報交換など、コミュニケーションを図る場で、参加者同士がお茶を飲みながら家庭や地域での困り事を話し合ったり、また、専門家のアドバイスも受けられる相談窓口の役割も果たしています。

開催当初はノウハウも無く参加者を集めることが困難な月もありましたが、自治会長や民生委員の協力を得て、少しずつ参加者も増えてきました。

今年度からは、地域包括センター・サークルナートと協働し、オレンジカフェの前に30分間のミニ講座を実施することになりました。

4月【介護予防・口腔体操】5月【認知症予防体操・コグニサイズ】6月【消費者被害の傾向と対策】の内容で実施し参加者も伸びつつあります。

高齢者や認知症の方々などが地域で暮らし続けるためには地域で支え合う事が必要で、我々高齢者施設の役割も今後更に増大すると思われます。

地域のニーズに耳を傾け、地域貢献をしていくために、更に地域の方々にオレンジカフェを活用して頂けるよう、努めて参ります。



各施設連絡先

社会福祉法人 松樹会

特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197
ディサービスセンター いこいの里
サテライトいこいの里 072-849-2210
特別養護老人ホーム いこいの里藤阪 072-868-2192
ケアハウス つくしんぼ長尾 072-868-2190
ディサービスセンター 長尾
ケアハウス つくしんぼ藤阪 072-868-2191
グループホーム たんぽぽ藤阪 072-868-2197
グループホーム たんぽぽ田口 072-898-2193
小規模多機能ホーム ふじ 072-868-2193
居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196
障害福祉サービス ミルキーウェイ 072-867-5690

医療法人 みどり会

中村病院 072-868-2071
中村記念クリニック 072-868-2070
介護老人保健施設 なごみの里 072-868-2072
サテライトなごみの里 072-818-2071
ディサービス長尾の里 072-860-7527
有料老人ホーム みどりの館 072-868-2727
旬彩なかむら 072-868-2195
ケアプランセンター なごみ 072-818-7533
訪問介護ステーション みどり 072-868-4392
地域包括支援センター みどり 072-845-2002
研修所 みどりの樹 0264-44-2550

編集後記

医療法人みどり会中村病院の創立40周年記念行事が地域の皆様の御支援のお陰で無事終了しました。式典までの事前準備実行委員会は①式典祝賀会、②40周年記念誌発刊、③40周年ビデオ製作、④中村猛短文集第二版の各実行委員の方々の協力で手作りの企画で推進し、又当日は職員が御来賓の各テーブル担当となりおもてなしの心で交流を深めさせていただきました。中村病院新增築、改修工事も完了しこれからも更なる地域医療福祉の充実に努めてまいりますので、今後とも御指導、御支援の程よろしくお願い申し上げます。

みどりの風編集委員会

連絡先 ☎ 072-868-2071 法人本部 松田